



▲しっとりやわらかな食感に仕上がったチョコにココアパウダーをまぶし、形を整える子どもたち。「家でもぜひ作ってみたい」と話し、レシピもしっかりメモして帰りました

心を込めてチョコ作り

バレンタイン大作戦

2月14日、中央公民館で“バレンタイン大作戦”が行われました。募集で集まった小学4～6年生30人限定の手作りチョコ教室で、市内各町公民館の合同企画。その主事が講師を務め、『やわらかショコラ』と『チョコどら』を作りました。

取り掛かる前は「上手にできるかドキドキ」と言っていた初参加の子ども達も、悪戦苦闘しながら出来上がりに近づくとき「お店で売ってある高級品みたいにできてうれしい」と大喜び。また、「将来、学校の先生になって、今日みたいにチョコ作りを教えたい」と話す女の子もいて、手作りを楽しみながら、夢も広げていました。仕上げは、メッセージカードを付けて、ラッピング。「日頃に感謝！家族や友達にプレゼントします」や、「内緒よっ♥」と言って、さらに、愛情や友情をたっぷり込めていました。

おはこ 十八番料理の腕も振るう

多久市健康づくり栄養教室 閉校式

昨年7月から食生活の大切さを学ぶ調理講習や研修を重ねてきた多久市健康づくり栄養教室の受講生21人が2月18日、総仕上げとなる調理実習を中央公民館で行いました。作ったのは、「私たちの十八番 料理 食べてみてくんしゃい」と題した焼き春巻き、干し柿と大根の酢の物、あけぼのご飯、ひじきのごまサラダ、鮭の香り漬けなど10品。おいしく、ヘルシーに手際よく仕上げました。

試食後には、この教室の閉校式を行い、藤田和彦副市長が修了証書を授与。今後は、学んだ食に対する正しい知識や料理を1人でも多くの人に広めるサポーター役やヘルスマイト(食生活改善推進員)としての活躍を期待しました。



▲腕を振った自慢料理を紹介する受講生ら

家庭教育は全ての教育の原点

多久市家庭教育シンポジウム



多久市教育委員会、多久市PTA連合会、多久市家庭教育推進協議会は2月7日、社会福祉会館で『家庭教育シンポジウム』を開きました。

「家庭教育を支える地域と学校のあり方」子育てについて何ができるか、何をしなければならぬいか」をテーマに、多久市内の学校と保護者、社会教育関係者、報道機関の代表者5人がシンポジストを務め、約60人の参加者とも意見交換しました。

まず、司会の川内丸信吾中央公民館長があいさつし、「家庭教育はすべての教育の出発点。親の責任や問題を主役に、子育てのしやすい環境整備や家庭教育支援の充実には、どんなものがあるでしょう」でスタート。

北部小PTA副会長の石川景子さんは、「一人の人間をきちんと世の中に出すまでは、親の責任」と。東部小教頭の立川弘子さんは「早寝、早起き、朝ごはんは当たり前。家庭は、基本的習慣を身に付かせ、情操を育む責任がある。しつけに